（その三）

工場又は事業場の名称	東洋合成工業株式会社 市川工場

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
1 9	3 2	4 9	5 1	5 2	4 9	3 1	5 2	3 9	

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策１：＊ﾍﾞﾝｾﾞﾝの使用を廃止した。

対策２：＊蒸留装置のｱﾌﾀｰｺﾝﾃﾞﾝｻｰにｺｰﾙﾄﾞﾄﾞﾗｯﾌﾟを2基増設しVOCを効率よく補足できるようにした

蒸留装置＃2300のｺｰﾙﾄﾞﾄﾗｯﾌﾟの位置を変更した。蒸留装置＃3400のｱﾌﾀｰｺﾝﾃﾞﾝｻｰを新設した

3系ﾁﾗｰ装置全体の負荷の見直し、負荷の分散を行った。

対策３：屋外ﾀﾝｸにﾍﾞｰﾊﾟｰﾘﾀｰﾝ配管を設置した。TK-622、TK-623ﾀﾝｸの遮温塗装を行った。

対策４：屋外ﾀﾝｸのﾌﾞﾘｰｻﾞｰﾊﾞﾙﾌﾞ及びｴｽﾃﾙ中和釜のﾍﾞﾝﾄから排出されるVOCを吸着除去するため、

遊休品のPSAを再稼働した。

対策５：ｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ製造時のｵﾌｶﾞｽ対策としてﾃﾞｨｯﾌﾟ式吸収塔を設置した。

対策６：屋外ﾀﾝｸにﾍﾞｰﾊﾟｰﾘﾀｰﾝ配管を設置した。

対策７：H25年度、廃液ﾄﾞﾗﾑに局所排気ﾀﾞｸﾄを設置した。

対策８：H25年度、各種ｽｸﾗﾊﾞｰ内の封水pHを11以上に管理した。

対策９：H26年度、PSA稼働ﾃｽﾄ実施（継続）、ｷｰﾊﾟｰﾌﾞﾘｰｻﾞｰを一部設置した。

H27年度、PSA洗浄ﾃｽﾄ実施した。

H28年度、ｷｰﾊﾟｰﾌﾞﾘｰｻﾞｰ3基設置(TK-15・604・611)

対策２：H27年度、夏場のﾀﾝｸ散水を実施している。

対策９:PSAの真空ポンプの更新、シリカゲル、活性炭の更新をした。

対策１：H29年度、トルエンの販売を中止した。

対策１：酢酸-n-ヘキシルの生産を中止した。

対策２：R02年度、夏場のﾀﾝｸ散水を2基⇒3基（ｷｼﾚﾝﾀﾝｸ1基追加）に変更（未実施で中止）。

（その四）

工場又は事業場の名称	東洋合成工業株式会社 市川工場

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成２１年度以前	平成２２年度	平成２３年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

＊基準年度に対して30%削減するという目標については、余裕をもって達成することができた。

22年度は生産量が増えた為、排出等の量が19,000ｋｇと計画値を達成することが出来なかった。

しかし、23年度は22年度と生産量はほぼ同じだったが、ﾍﾞｰﾊﾟｰﾘﾀｰﾝ配管付屋外ﾀﾝｸの使用頻度が増えた為、排出量を抑制することができた。

＊ﾍﾞｰﾊﾟｰﾘﾀｰﾝ配管付屋外ﾀﾝｸの使用率　25年度：71%　26年度：88%　27年度：78%

＊使用量は計画年度とほぼ同等の量を取り扱ったが、取り扱い品目数で1.1倍、さらに揮発性の高いﾒﾀﾉｰﾙ、ｱｾﾄﾝに関しては1.5倍近く増えているので充填作業の増加及び排出量の増加が考えられる。

＊対策：①屋外ﾄﾞﾗﾑ充填施設に局所排気装置の設置②PSA装置の脱臭液の変更を計画している。

＊H26年度、引き続きPSA装置の脱臭液変更を計画、その他一部の屋外ﾀﾝｸにｷｰﾊﾟｰﾌﾞﾘｰｻﾞｰを設置予定。

＊H26年度PSA装置ﾃｽﾄ実施、今季継続ﾃｽﾄ中。ｷｰﾊﾟｰﾌﾞﾘｰｻﾞｰ設置中（約半数）。またH26年度は計画値の18,000kgを達成することができなかったのは、生産量が増加したためである。

＊H27年度、PSA洗浄ﾃｽﾄ実施し、効果を確認した。前年報告した計画値の算出に不備があり、修正。

＊H28年度、夏場のタンク散水を実施しております。ｷｰﾊﾟｰﾌﾞﾘｰｻﾞｰを3基設置した。

＊H29年度、PSAの真空ポンプの更新、シリカゲル、活性炭の更新をした。

＊H30年度、ﾄﾙｴﾝの販売を中止した。

H30年度、排出等の量が15,000kgに低減している理由は、MEK関連の生産量が24%減少した為である。

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

(その三)

工場又は事業場の名称	株式会社淀川製鋼所 市川工場

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
２　１	２　２	５　６							

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策１
塗料、シンナーのフタ閉め、漏れ防止による溶剤管理の徹底
対策２
製品品質安定化による塗料使用量の低減実施
対策３
蓄熱式除去装置の安定運用

（その四）

工場又は事業場の名称	株式会社淀川製鋼所 市川工場

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成２１年度以前	平成２２年度	平成２４年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

（その三）

工場又は事業場の名称	ＥＮＥＯＳ㈱ 市川油槽所

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
4 1	5 1								

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

（その四）

工場又は事業場の名称	ＥＮＥＯＳ㈱ 市川油槽所

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1) の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成２１年度以前	平成２２年度	平成２３年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

対策は以下の通り

1. 炭化水素回収装置の通年運転

2. 貯蔵タンクは浮き屋根式を使用

平成24年7月、近隣の船橋油槽所の廃止に伴い、平成25年以降排出量が増加している。

令和３年度は令和２年度より減少の見込み。

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

{（基準年度の排出等の量－計画年度の排出等の量）／基準年度の排出等の量}×１００

（その三）

工場又は事業場の名称	株式会社クラウンパッケージ東京工場輪転印刷課

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
2 1	2 2	9 1							

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

（その四）

工場又は事業場の名称	株式会社クラウンパッケージ東京工場輪転印刷課

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1) の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成２１年度以前	平成２２年度	平成２３年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

（その三）

工場又は事業場の名称	小西紙業株式会社 関宿工場

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
1 1	1 2	2 1	2 3	2 9	3 1				

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

２９、切り替え作業中の溶剤カバーの徹底

（その四）

工場又は事業場の名称	小西紙業株式会社 関宿工場

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成２１年度以前	平成２２年度	平成２２年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

使用量が増えないよう作業方法の改善により溶剤使用量を削減する

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その三)

工場又は事業場の名称	伊藤喜オールスチール（株）本社、工場

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
1 3	2 1	2 2	2 3	3 1	5 4	9 1			

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

（その四）

工場又は事業場の名称	伊藤喜オールスチール（株）本社、工場

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成２１年度以前	平成２２年度	平成２３年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

デスクトップの表示.scf

(その三)

工場又は事業場の名称	株式会社ユーワ 本社工場

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
2 1	9 1								

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

（その四）

工場又は事業場の名称	株式会社ユーワ 本社工場

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1) の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成２１年度以前	平成２２年度	平成２３年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

（その三）

工場又は事業場の名称	株式会社　トーカン

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
1 9	9 9								

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策１

当社主力機種の製造工程には、トルエンが使用されていたが、トルエンを使用しない新機種を開発・拡販することでトルエンの使用量を下げている。

対策２

生産量の減少により、使用量が抑制された。

（その四）

工場又は事業場の名称	株式会社　トーカン

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1) の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成２１年度以前	平成２２年度	平成２３年度以降
✓ Ⓐ	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。 ✓
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

(その三)

工場又は事業場の名称	ユニオンペイント株式会社 千葉事業所

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
1 1	2 1	2 3	5 1	9 1					

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

（その四）

工場又は事業場の名称	ユニオンペイント株式会社 千葉事業所

⑶ 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成２１年度以前	平成22年度	令和2年度
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

下第２位を四捨五入して得た数値を記載すること。）。

5　計画年度の削減率の実績値は、次の式により算出される数値を有効数字２桁で記載すること。

｛（基準年度の排出等の量－計画年度の排出等の量）／基準年度の排出等の量｝×１００

(その三)

工場又は事業場の名称	エイブリック株式会社 高塚事業所

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
2 2	3 4	9 1							

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

（その四）

工場又は事業場の名称	エイブリック株式会社 高塚事業所

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1) の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成２１年度以前	平成２２年度	平成２３年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
Ⓒ	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

1）手直し等に要する薬品使用量の削減のための継続的な削減活動に取り組む。

2）老朽設備を計画的に更新する。

3）揮発性有機化合物等の化学物質使用状況の適切な把握と管理を実施する。

4）排気中の揮発性有機化合物濃度の適切な把握を行う。

5）廃棄物に含まれる揮発性有機化合物の適切な把握を実施する。

6）回収廃液に含まれる揮発性有機化合物の適切な把握を行う。

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

(その三)

工場又は事業場の名称	サカタインクス（株） 東京工場

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
2 1	2 3	3 1	5 1						

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

（その四）

工場又は事業場の名称	サカタインクス（株） 東京工場

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成２１年度以前	平成２２年度	平成２３年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

＜課題＞

＜対策＞

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

(その三)

工場又は事業場の名称	株式会社　城北鍼力印刷工業所 株式会社　城北鍼力印刷工業所

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
1　1	2　1	2　2	5　5	9　1					

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

（その四）

工場又は事業場の名称	株式会社　城北鍼力印刷工業所 株式会社　城北鍼力印刷工業所

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成２１年度以前	平成２２年度	平成２３年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

(その三)

工場又は事業場の名称	スリーエイ化学株式会社 木間ケ瀬工場

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
2 1	2 2	5 6	1 2						

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

（その四）

工場又は事業場の名称	スリーエイ化学株式会社 木間ケ瀬工場

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成２１年度以前	平成２２年度	平成２３年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

昨年度（2020年度は）稼働実績が12か月でした。

自主取り組みについて、途切れなく実施し、今年度も目標値をクリアーすることが出来ております。

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

（その三）

工場又は事業場の名称	株式会社トーショー 株式会社トーショー

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
1 1	2 1	2 2	9 1	9 3					

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

（その四）

工場又は事業場の名称	株式会社トーショー 株式会社トーショー

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1) の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成２１年度以前	平成２２年度	平成２３年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

２位を四捨五入して得た数値を記載すること。）。

５　計画年度の削減率の実績値は、次の式により算出される数値を有効数字２桁で記載すること。

｛（基準年度の排出等の量－計画年度の排出等の量）／基準年度の排出等の量｝×１００

（その三）

工場又は事業場の名称	サンコーテクノ株式会社 流山事業所

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
1 1	2 1	2 2							

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

（その四）

工場又は事業場の名称	サンコーテクノ株式会社 流山事業所

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1) の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	２００９年度以前	２０１０年度	２０１１年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。 ✔
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

(その三)

工場又は事業場の名称	昭和電工マテリアルズ株式会社　五井事業所（野田）

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
1 1	2 1	5 6							

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

（ＣＯＶＩＤ１９流行による生産量減少により、取扱量、排出量とも減少した。）

（その四）

工場又は事業場の名称	昭和電工マテリアルズ株式会社　五井事業所（野田）

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成２１年度以前	平成２２年度	平成２３年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

設備老朽化に伴う故障防止、計画的なメンテナンス、修繕の実施。

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

（その三）

工場又は事業場の名称	株式会社メイワパックス 野田工場

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
5 6	5 5								

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

(その四)

工場又は事業場の名称	株式会社メイワパックス 野田工場

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成２１年度以前	平成２２年度	令和３年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

(その三)

工場又は事業場の名称	穂高　株式会社 松戸工場

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
2 1	3 1	5 3							

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

(その四)

工場又は事業場の名称	穂高　株式会社 松戸工場

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成２１年度以前	平成２２年度	平成２３年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概4順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

① 蒸留したパークロロエチレンの回収率を上げるためのコンデンサの洗浄を行う

② 石油用タンブラー乾燥機の回収機付き割合の増加を検討する。

③ パークロロエチレン洗浄機からの廃液用バケツ（一時受け）を密閉することで揮発を防止する

④ 石油の使用量が増えている為回収率を高める又は良好な状態を維持する為フィルターや水分離機などの清掃をこまめに行う

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

工場又は事業場の名称	昭和電工マテリアルズ株式会社　松戸事業所

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
２１	２９	９９							

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

２１：洗浄装置投入前の製品の油切り徹底による溶剤使用量の低減

２９：部品不良低減による処理量の低減(継続)

９９：製品工程見直しによる洗浄工程廃止

(その四)

工場又は事業場の名称	昭和電工マテリアルズ株式会社　松戸事業所

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成２１年度以前	平成２２年度以降	平成２３年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

製品不良発生に伴う洗浄対象数増加および顧客殿から依頼される洗浄対象製品数の低減が課題である。

今後も継続し、製品不良低減による洗浄対象数低減および洗浄対象製品の工程見直しによる洗浄工程削減を推進する。

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

（その三）

工場又は事業場の名称	株式会社　恵比寿加工 野田はやま工場

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
1 1	5 6	2 1	3 2	9 1	5 4				

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策１．　非揮発性有機化合物（水溶性）の使用量の増加を図る。
対策２．　排ガスを蓄熱式脱臭装置に送り込み、燃焼させ、ＶＯＣの除去を図る。
平成19年３月の工場立ち上げ時から実施。実測値９８．８％除去。
対策３．　有機溶剤の入った容器の蓋閉めを徹底し、揮発防止を図る。
対策４．　工場内の冷却装置の増設により揮発量の減少を図る。
対策５．　品質管理を徹底し、不良率の減少を図り、有機溶剤の使用量を削減する。
対策６．　排ガスを直火式脱臭装置に送り込み、燃焼させ、ＶＯＣの除去を図る。
平成２５年４月の新設備の立ち上げ時から実施。実測値９９．９％除去。

（その四）

工場又は事業場の名称	株式会社　恵比寿加工 野田はやま工場

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成２１年度以前	平成２２年度	平成２３年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

課題　平成19年と平成25年に設置した2台の設備で生産している。

平成19年に設置した設備の生産量は平成31年度から減少し始めて令和2年度は更に減少した。令和3年度は令和2年度と比較しほぼ同量の生産量と予想される。

平成25年に設置した設備は令和2年度までは、ほぼ同量の生産量であるが平成30年度の後半から水溶性の粘着剤の使用量が序々に増加している。

令和3年度の生産量は令和2年度と比較しほぼ同量の生産量と予想される。

令和3年度の揮発性有機化合物の排出量は令和2年度と比較し、ほぼ同量と予想される。

対策　（１）非揮発性有機化合物（水溶性）の使用量の増加を図る。

（２）蓄熱式脱臭装置、直火式脱臭装置にて、揮発性有機化合物の減少を図る。

（３）夏期の工場内の気温を適度に保ち揮発を防止する。

（４）品質管理を徹底し、不良率の減少を図り、有機溶剤の使用量を削減する

（５）有機溶剤の入った容器の蓋閉めを徹底し、揮発防止を図る。

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。